

毛原の棚田

大江山の麓にある毛原には、たくさんの棚田が残っています。これらは耕作可能な土地を最大化するために作られたもので、少なくとも平安時代（794 年～1185 年）から、毛原の小さな村を支えてきました。かつてここには明治初年（1868 年）に 36 軒、136 人もの方が住んでいましたが、現在、民家は 13 軒しか残っていません。この親密なコミュニティは、今後も村独自のライフスタイルを維持し、サステイナブルな暮らしを促進するために取り組んでいます。また棚田オーナー制度による新たな仲間も歓迎しています。村の頂上近くにある展望台からは、段々になった風景を一望できます。水たまりが反射し、稲の苗が生え美しく並ぶ初夏の風景は特に風情があります。そして今なお残る伝統的な茅葺き屋根の家と水車小屋があたりの景観を際立たせています。夏の夜は、美しい山の水に引き寄せられたホタルの群れが田んぼを美しく照らします。

村には、カラフルに彩られた化粧地藏、水車小屋、ゲスト用コテージ、予約制のレンガ造りのピザ釜、そして訪問者が特に興味を持ちそうなどぶろく醸造所もあります。毎年春には田植えが行われ、7 月と 8 月にはブルーベリーやブラックベリーを自分で摘むことができます。村の中を歩くのには 30 分～60 分かかります。村の展望台には徒歩でしか行けないので注意してください。また、予約をすればツアーガイドをお願いすることも可能です。